

現市長の
優先順位は
間違っています

新しい女性リーダーで

市民の声が届く 清瀬市政に

現市長は、「分野を絞り、未来への投資を」(3月22日)といいますが、市民の中では、強引なサービス縮小と、施策の優先順位に疑問の声が広がっています。



「図書館が生き返ってほしい」8歳の子どもの手紙

現市長は市民に知らせず、地域図書館4館の閉館計画を決定。市民が「地域図書館の廃止を勝手に決めないで」と、住民投票を求めましたが、現市長は背を向けました。

身近な図書館がなくなり、多くの子どもや高齢者から「本が読めなくなった」「生活が変わった」と嘆きの声が上がっています。直接、本棚から本を選べる図書館の機能は、宅配サービスでは代替できません。リーダーを変えて、地域図書館を復活させましょう。



閉鎖された野塩図書館

市の借金で「夢空間」を設置!?

現市長の強力な意向で、清瀬とは縁もゆかりもない、豪華客車「夢空間」の2両が中央公園に設置されました。移設費、修理費ですでに2.2億円。今後の維持運営費の見通しは示されていません。市民からは「ムダ使いでは」「電車より優先すべきことがある」と声が上がっています。

すでに **2.2**億円



現市長の旅費が爆増

日本共産党市議団の公文書開示請求では、現市長は、3年間で16回も鉄道施設を視察、北海道だけで4回。市長の特別旅費の予算は前市長の年間50万円から、現市長は350万円に激増! 鉄道施設をたくさん見るのは個人のお金でやるべきです。

市政は「市長のやりたいこと」から 「市民の願うこと」に変えよう

現市長は「財政難」を叫びますが

豪華列車「夢空間」はクラウドファンディングでは854万円しか集まらず、財源の大半は「借金」、未来への「負の遺産」です。

図書館経費は、6館体制の23年度予算が2.9億円、3館に減らした26年度が4.3億円へ、経費は1.5倍に拡大。

「財政難」を叫びながら、こんなムダづかいをするのは矛盾しています。





清瀬市の新たなリーダーに

市民とともに歩んできた女性を



現職に挑む女性新人は、27歳から清瀬市議員(日本共産党)を6期23年間務め、市民とともに、安心して暮らせる清瀬市をつくるため力をつくしてきました。市議会副議長などを歴任し、市政の経験も豊かです。市民の声が届く市政に変えるために、ふさわしい人です。

ついに!

南部地域に 児童館が実現

「南部地域にも児童館がほしい」という父母と20年にわたり運動。ついに南部児童館(まつぼっくり)ができました。



残った!

元町こども図書館

地域図書館閉館の問題をいち早く市民に知らせ、図書館を守る運動を市民と一緒に取り組み、元町こども図書館だけは残すことができました。



建設的提案で市政を動かす日本共産党

日本共産党市議団は学校給食無償化、補聴器購入費補助制度、こども医療費18歳まで無料化なども市議会ですら率先して提案し、市民とともに実現してきました。「批判ばかり」(現職陣営3月22日)と言うのは的外れです。

女性
新人

対話による まちづくりへ 無所属で挑戦

市民不在の市政運営を変えてほしいという多くの人の受け皿となるため、対話によるまちづくりをすすめるため、無所属で市政転換に挑みます。

- △ 情報公開を徹底し、隠しごとのない透明な市政へ
市民参画を土台にすえ、市民との対話によるまちづくりをすすめます
- △ 暮らしを応援! 義務教育の負担軽減
給付制奨学金の創設、ごみ袋代を引き下げ、プラ袋はただちに無料に
子どもの国民健康保険税引き下げ
- △ 駅周辺に、市役所出張所を作ります
- △ 地域図書館を再開し、魅力ある街のリビングに
- △ 清瀬駅にエレベーター、エスカレーター、ホームドアを
- △ 下宿・旭が丘、下清戸地域をめぐるコミバスを
- △ 子どもの意見を反映し、子どもの権利条例をつくります
- △ 非核清瀬市宣言を生かし、平和の発信を強めます

